

## 第20話 開港の始末

けれども、世界の**大勢**は、**ひとり我が国民に鎖国の情眼を貪**ってはいられなくする。  
**米国使節ペリー**の来朝。 **和親条約の締結**につづいて**攘夷**、**開港の両論**が**喧すしく**  
 起こる。**大老井伊直弼**の**通商仮条約**の**調印**。

### 開港論

幕府が鎖国の方針を変えなかったために、海外の事情を知らない者は、一般に攘夷の説に傾いたが、  
 洋学を修めた者のうちには、やゝ世界の形勢をさとって、開港の意見を述べたものも少なくなかった。た  
 また**天保9年**のころ、イギリスの軍艦が来て**通商条約**を請う筈だという噂が立つと、幕府は例の外  
 国船撃攘の令によって、これをまた撃攘そうとした。これを聞いた洋学者の**渡邊華山**は『**慎機論**』  
 を著し、**高野長英**は『**夢物語**』を著して、共に撃攘の無謀な所以を論じた。

### 渡邊華山と高野長英の処罰

ところが、このころの老中**水野忠邦**に最も信頼されていた幕府の目付**鳥居忠耀**は、**大学頭林述斎**  
 (衡)の子で、**鳥居氏**を継いだ人でもあったので、**儒者出身**だけに洋学を嫌い、機会があれば洋学者を  
 陥れようとしていたので、乃ち、これをもって妄りに人心を惑わし、幕府の政治を非議するものとして2人  
 を処罰した。**華山**はその藩主**三宅氏**の**城地**である**三河国田原**に移して**禁固**にされて、**長英**は**江戸**の  
**伝馬町**の**牢屋**に入れられたが、後に、**華山**も**長英**も、このために自殺した。

### 外国船撃攘の令を緩める

一方、**外国船撃攘**の令が出てから既に十数年間、その間に我が海岸に近づいた外国船で、1も2  
 もなく撃攘われたものも少なくなかったが、その中には、実際に我が**漂流民**を護送して来たものもあっ  
 た。**天保8年6月**、**浦賀**に来て、**無遠慮**に砲撃された**米国船****モリソン号**の如きは即ちそれで、同号は  
**鹿児島湾口**でもまた砲撃を受けたために、**止む無く**中国の**澳門**に帰ったが、その船に乗っていた我が**肥後**  
 の**漂流民**の**寿三郎**という者が、故郷に帰りたくても帰れない身の不運を悲しみ、一書を認めて、これを  
**長崎行き**の中国船に託して故郷に送ろうとした。**天保12年7月**、たまたま**長崎奉行**がこれを見て、頗  
 るその心中を憐れに思い、更にこれを幕府に呈したので、老中らもいろいろと評議をした末、ついに外国  
 船撃攘の令を緩めて、**難風**に遭って漂着した外国船には、**薪水**、**食料**などの**必需品**を与えて帰航させる  
 ことにして、**乱暴**な行いをする者だけを撃攘わせることにした。

しかし、これには、このころ、**隣邦**の**清国**が、**阿片**の**輸入**を禁止した事から、イギリスと戦争を開  
 いて、**連戦連敗**している由の知らせが達していたので、それにも鑑みるところがあったのです。

### オランダ国王の忠告

ついで、翌々**弘化元年7月**には、**オランダ**の国王**ウイリアム2世**が、わざわざ使いを載せて軍艦をよ

こして、忠告の書面を將軍に送った。 それには、

「先づ、阿片戦争の結果、中国が5港を開いた事実を挙げ、次にヨーロッパの諸国はますます東洋に貿易の道を開こうとしているので、今後、日本の近海にも外国船の漂い浮ぶことがいよいよ多くなるであろう。しかし妄りにこれを撃攘ったりすれば、忽ち中国と同様な災禍に罹る虞がある。殊に西暦1807年（我が文化4年）に汽船が発明されて以来、交通が発達し、遠い国々も隣の如くに相往来して、互いに交誼を厚くしているのに、独り国を鎖すというような事は、到底行われるものではない。200年来の懇誼に報いるために、特に使いを派して開国をお勧めする」

というのが大体の意味で、その忠告の言葉は極めて懇切でした。

けれども、幕府はなお祖先の遺法をたやすく変えることは出来ないといって、これに従わず、いよいよ海岸の警備を厳にした。

そののち、外国船の来て通商を請うものはますます多くなったが、それをもこれをも幕府は祖法の一点張りで拒みつづけているうちに、ついに有名な米国の使節ペリーの来日となりました。

### アメリカ合衆国の決意

これより先き、アメリカ合衆国は頻りに地を西方に拓いて、太平洋岸一帯の地を収め、我が弘化元年には中国とも通商条約を結んで、貿易を営む事となったのみならず、その捕鯨船は、既に久しい前から、頗る多く我が近海にも出漁していたので、薪水、食料の供給や、船の修理などのためにも、寄港地を我が国に求めることの必要性を痛切に感じていたのです。

それで、弘化3年および嘉永元年の両回、すでに使節をわが国に遣わして通商を求めたのですが、幕府のために拒絶されたので、尋常一様的手段では日本に開国させることの難しいのを悟って、さてこそ時の大統領ミラルド・フィルモアは、水師提督ペリーを派遣して、極めて強硬な態度で通交開始を交渉させることにしたのです。

### ペリーの浦賀入港

さて、米国の使節ペリーが船艦4隻を率いて堂々と相模の浦賀湾頭にあらわれたのは、西暦1853年、第121代孝明天皇の嘉永6年6月3日でした。4隻のうち2隻は帆船でしたが、2隻は汽力、風力兼用の軍艦で、その黒船の煙突からは濛濛と黒い煙が出ている。これを見た浦賀付近に者らは、あれはきっと切支丹伴天連の妖術で、あれを一息吸ったら、忽ち全身が麻痺して死んでしまうだろうと、恐れたというのを見ても、如何に驚き騒いだかが想像されます。

### 米艦の強硬な態度

米艦が4隻、浦賀湾内に投錨するのを見ると、時の浦賀奉行戸田伊豆守氏榮は、直ちに部下を遣わして、米艦に赴かせたが、米人は、当港の最高の役人の外は一切乗船を許さないと称して、容易に彼等を近づけない。そこで、与力の中島三郎助が、自ら次官であると称して、漸く1人で旗艦サクスハナに上船して、その副官に会い、この諸船が米国の艦隊であること、および、ペリー提督が米国の大統領

## 第 20 話 開港の始末

から日本の将軍に宛てた重要な書翰を持って来ているので、奉行自ら来てその写しを受け取るようにと告げ知らされた。

それで、三郎助は、外交の事は一切長崎で取り扱うのが国法であるからと、長崎へ廻航するように言ったが、相手はもとより聴こうとしなかった。江戸に近ければこそわざわざ浦賀を選んだのであるからして、断じて長崎には行かない、と極めて強攻に撥ねつけたので、三郎助は密かに其の態度に驚きながら、引き返して、奉行にその旨を報告した。

### 不安におびえた其の夜の浦賀

その夜の浦賀の町の不安におびえた光景は容易に想像されます。海岸を繞った山や山の上では到るところで烽火をあげて、遠近に異常の警めを伝え、大小の警鐘は夜通し天空に響き渡った。殊にサスクハナ艦上で放った午後九時の号砲は、いかに我が守備隊の心胆を寒くさせたことだったでしょう。轟然と轟きわたったその 1 発に、忽ち岸上は動揺を來たして、所々の篝火は一時に消えた。多分、敵陣の標的となるのを避けたのでしょう。たまたまその夜は、南西の空に低く彗星が現れていた。初めて聞いた黒船の砲声に驚かされた我が国人は、眼をあげては遥かに遠くその空を眺め、眼を返しては眼下に近く湾内の黒船の動性を監視しながら、いかに不気味な 1 夜を兢々として明かしたことでしょう。

奉行は江戸へ急使を馳せると共に、翌 4 日の早朝、与力の香山栄左衛門に浦賀奉行と称してサスクハナに赴かせて、重ねて長崎への廻航を説かせたが、もとより相手は受け付けようとしなかった。却って、止むを得なければ武力に訴えても上陸を強行して、国書をも齎した使命を全うするであろうと、威嚇した。そこで栄左衛門も、今はいかんとも仕方がなく、ともかくも江戸政府の指図に仰ぐことにするからとて、3 日間の猶予を承諾させて帰って来た。

こういう知らせが刻々毎に江戸に注進されたので、幕府の驚愕は一通りではなかったが、それにも増して騒いだのは江戸の市民でした。彼等は今にも戦争がおこるかの如くに考えて、老人や子供を連れて避難するものさえあったといえます。

### 幕府の讓歩

とはいえ、米艦渡来の趣旨はまだ明らかにされていなかったもので、幕府は第 1 に先づこれを知らなければならぬと共に、なるべく早く米艦を浦賀から退去させなければならないのだが、すでに長崎へ向わせることが出来ない以上、いやでも彼の要求に応じ、江戸から特使を出して、その書簡を受け取らねばならない。幕府の評議がこれに一決すると、時の首席老中阿部伊勢守正弘は、井戸石見守弘道に命じて、浦賀に赴き、戸田伊豆守氏栄と共に、ペリーに会見して、国書を受け取らせることにした。

弘道は 8 日に浦賀に着いた。会見は翌 9 日に、浦賀の西南約 4 km の久里浜ですることにして、急に会見に必要な飯屋を建てた。

### 久里浜の会見

さて、6 月 9 日の朝、米艦サスクハナ、ミシシッピの 2 隻が久里浜の前面に進んで錨をおろした。

## 第20話 開港の始末

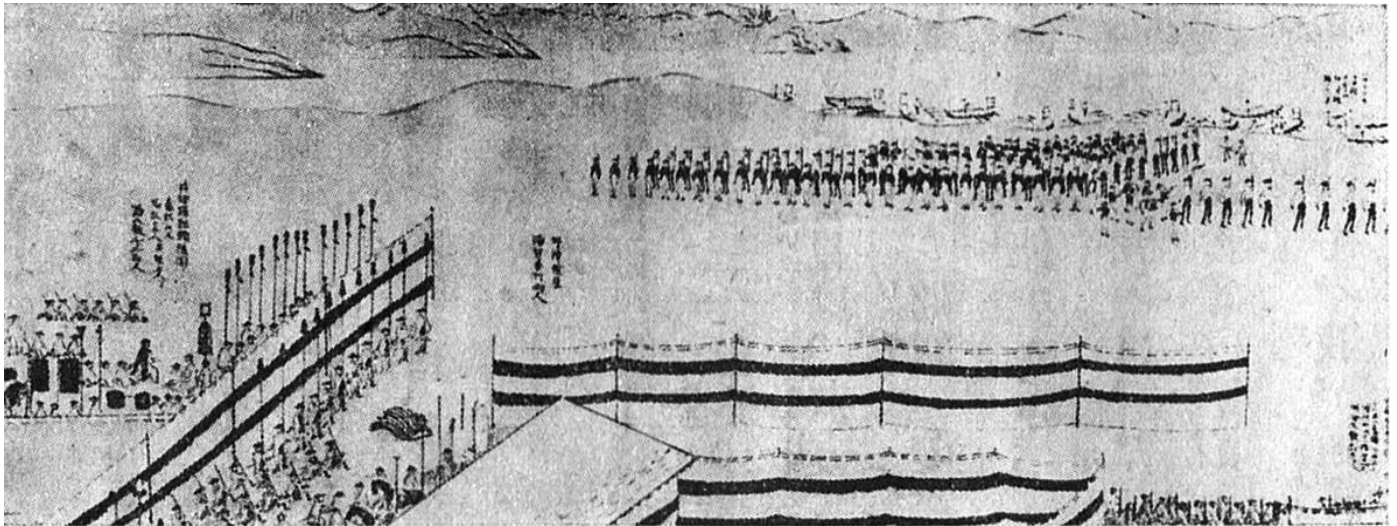
すでに陸上には、将軍家の葵の紋のある幔幕が張りまわされて、幕府および警衛諸家の旗や幟が諸方にへんぼんと翻っている。そして海岸一带には、その数凡そ5,000の兵士が銃や剣や槍を携えて、整列している。海上には、艤装した小船が200艘以上も泛んでいる。

又、会見場は、浜辺からやや離れて、この浦の中央に位したところに、幔幕をもって飾られている。

やがて、使節ペリーは正装させた300余人の将士を前後にして上陸したが、会見所にはこのうち30余人の部下を随えて進み、その余りは残して浜辺に整列させた。

こうして会見は、双方共に威容を示した荘嚴な光景のうちに行われて、米使は我が特使に大統領から将軍への書簡、およびペリーの信任状、並びにペリーから将軍への書簡を渡し、わが特使からはこれに対する受取状を彼に渡した。

双方共に使節は全く無言で、発言したのは、ただ双方の通訳のみでしたが、彼れは我れに、数日後にこの地を去って琉球を経て広東に赴き、明春再び渡来して、その時に返答を聞くことにする旨を告げた。それで、我が通訳が、明春も同じく4隻の船を率いて来られるのかと訊くと、彼は答えて、恐らくはなお多数の船を率いてくることになるであろうと言った。



米国使節ペリーの久里浜上陸

こうして国書授受の儀式は終わり、ペリーは立って、告別の言葉を述べて室外に歩み去った。我が特使は起立して目送した。この会見に要した時間は30分を出なかったとされています。

やがて、米人がみなその乗船に帰ると、船は錨をあげて浦賀に帰った。

さて、4隻の米艦は、やがて浦賀を動き出したか、と思うと、忽ち方向を江戸湾の奥へ向けて、深く本牧沖まで入ってきた。そしてそこに停泊すると、幕府が人を派して頻りに抗議したにもかかわらず、その日も、その翌10日も、11日も、悠々と神奈川の近海を測量して、そして12日の朝、江戸湾を去って琉球に向った。

後に、明治34年7月14日、- 嘉永6年から48年目に、- この会見の地にペリー上陸記念碑が建てられた。後から見れば、彼は正しく我が開国の恩人だったからです。碑は高さ約10mで、「北米合衆

## 第20話 開港の始末

こくすいししていとくペリーじょうりくきねんひ

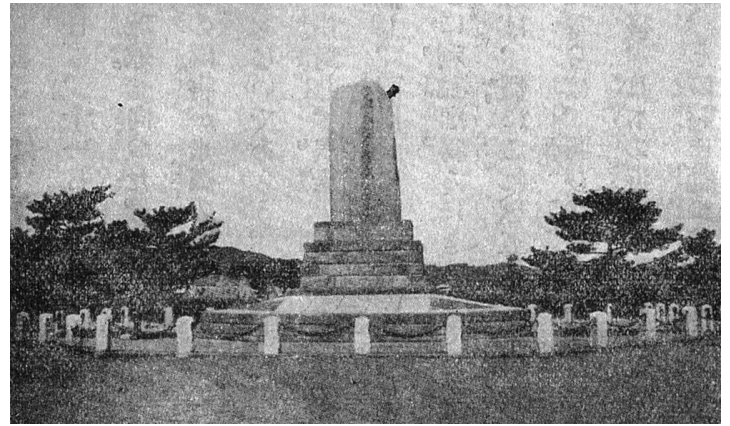
国水師提督伯理上陸記念碑」と彫りつけてある。

ないかくそうりだいじんこうしゃくいとうひろふみひつ

文字は時の内閣総理大臣公爵 伊藤博文の筆です。

### アメリカ合衆国の国書

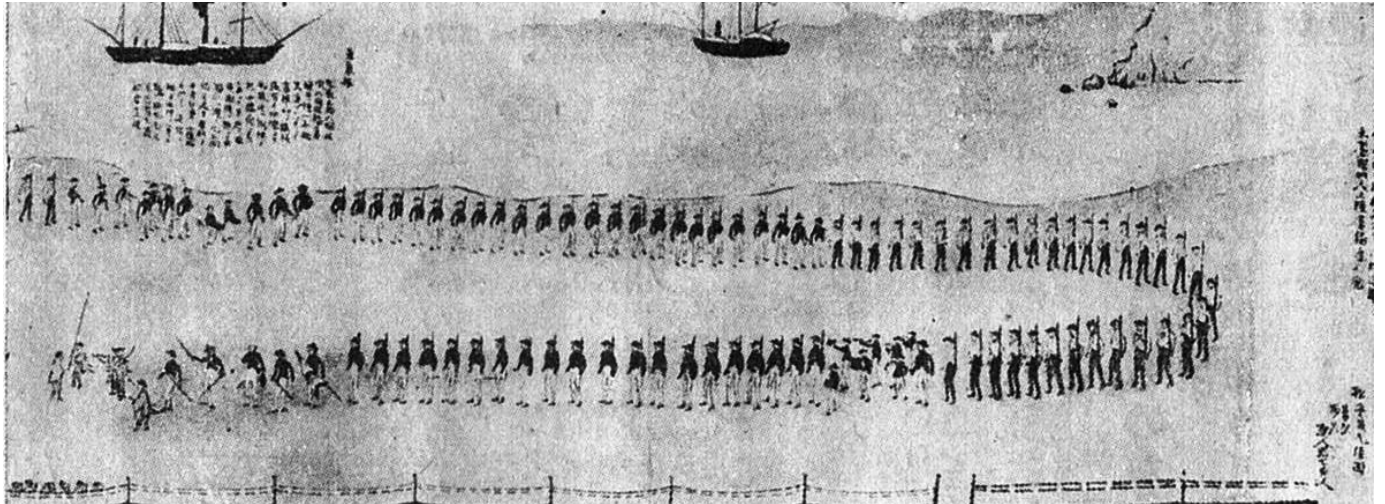
こうして黒船は漸く去ったが、問題は残った。大統領の国書が米国の希望を述べて、日本の開国を促したものであることは改めて言うまでも無いであろう。彼は先づ、アメリカ合衆国と日本とが、太平洋を隔てて相対し、汽船をもってすれば僅かに18日の航海にしか過ぎないこと



三浦半島 久里浜 ペリー上陸記念碑

を指摘して、両国共に国産が豊かであるから、互いに交通貿易を営めば、必ず互いに利益を得るにきまっていることを説いた。

もし将軍が祖法を改めることを好まないならば、仮にこれを5年か10年ほど試みて、その利害を察し、万一、日本の不利益が明らかであったならば、再び旧法に復するがよいではないかと言った。



右図左上方の大きな黒船が旗艦サスクハナ、その後方がミシシッピ。旗艦の下方の浜に当たって二人の黒人に両側を護られつつ進んでいるのが使節ペリー。

そして次に、米国の商船や捕鯨船が、今後、日本の近海で難破した時には、この難民を保護して、石炭、食料などの乏しい者には、その請に従って、これを給与して貰いたく、そのために南方の1港を開いて、米国船の停泊を許すようにして欲しいといったのです。

### 幕府の狼狽

ところで、幕府はこれをどうしたか？ 黒船の強硬な態度に幕臣はみな極度にうろたえていた。折から、将軍家慶は重い病のために臥せっていたし、幕府は、到底、自分の力だけでは安全にこれを処置することの出来ないのを自覚した。そこで、第1に先づこれを朝廷に奏上し、次には諸大名の意見を問うた。勿論、こういう国家の重大事件を朝廷に奏上するのは、当然な事なのですが、これ迄の徳川幕府は、政治の事には一切京都のお口出しはご無用である、という家康以来の方針で、内治も外交も共に将軍の専断をもって行ってきたのですから、それから見れば実に非常な変化です。これより朝廷が幕府の政治

## 第20話 開港の始末

かんしょう たんしよ ひら いしん きうん じょうせい  
に干渉する端緒が開けて、次第に維新の機運を醸成することになったのです。

又、諸大名に対しても、これまで、幕府は政治に嘴を容れることを禁じていたが、この時、初めて遠慮なく意見を述べるようにと申し渡したので、これが後には大名でない人々までが、盛んに政治を論ずる勢いをつくる基となりました。

### 諸大名の意見

とはいえ、当時の大名の多くは、外国の事情に暗く、又、軍艦を見たこともない者が多かったので、ペリーの来朝を、ちょうど文永、弘安の頃の元来の来寇と同じものの如くに心得て、短兵急に敵艦に迫れば、容易にこれを殲滅出来るかと考えた。

彼等はわが国の武備が極めて薄弱であることには一向に気づかずに、徒らに時勢に遠い大言壮語の攘夷論を述べて、これを実行しようとしたのです。

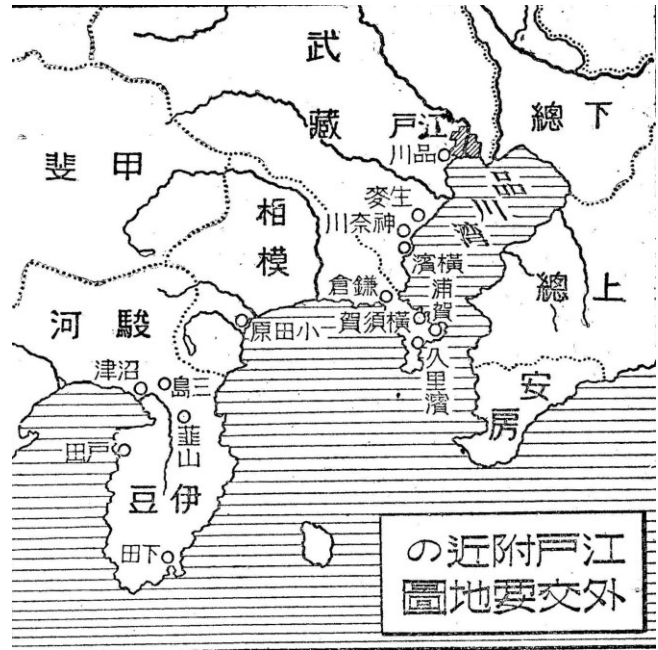
ただ僅かに開国を可としたものは、その藩内に洋学者を持っている数藩に過ぎない有様でした。水戸の藩主徳川斉昭が海防を厳にして、開戦の覚悟で談判すべし、と言って、大砲74門を幕府に献じたのもこの時のことです。又、幕府が江戸の海防を先づ厳重にする必要を悟って、江川太郎左衛門に、品川湾内に砲台を築かせたのもこの時です。

太平の眠りをさます上喜撰（蒸気船） たった四杯（4隻）で夜もねられず  
という狂歌が、当時の世の有様をよく現したものとされています。喜撰は茶の名で、上喜撰は上等の茶の意です。

### ロシアの使節が長崎に来る

こうして攘夷、開港の論がまちまちで決せずにいるところに、忽ちまた長崎から急報が来ました。ロシアの使節プチャーチンが軍艦4隻を率いて、6月18日に長崎に入港し、幕府に呈する国書を持参したと言っているというのです。思うに、幕府は、漸く前門の虎をしりぞけて、忽ち後門の狼を迎えるの感があったでしょう。とはいえ、すでに米国の国書は受け取ったのですから、ロシアの国書を拒むわけにはゆかない。そこで、奉行に命じて、これを受取らせたが、それは、千島および樺太における日露の境界を定める事と、ロシアのために日本の1, 2港を開いて貿易を営む事を請うたものでした。

しかし、幕府は、これにも回答の期を延ばして、一時はともかくも使節を去らせた。こういう騒ぎの間に、将軍家慶は在職17年、61歳をもって6月22日に薨じて、子の家定が第十三代の将軍となった。時に家定は30才でしたが、身は病弱で、とてもこの大事件を処理し得るような人ではなかった。



## 第20話 開港の始末

### ペリーの神奈川入港

世論は相変わらず囂々として喧すしい。勿論、大勢は攘夷論に傾いたが、しかし、軍備はまだ整わないのですから、これは容易には実行に移しかねる。こうして、幕府は、いづれともその方針を決めることが出来ずにいた。とかくするうちに、年が明けて嘉永7年（11月27日に改元して安政元年）になると、その正月16日にペリーは戦艦7隻を率いて、堂々と浦賀を過ぎて本牧岬の沖に投錨しました。言うまでもなく、前年の約によって国書に対する返答を得んがためです。

しかし、前年同様に、浦賀に入港するものとばかり思っていた幕府は大いに驚き、早速役人をやって、浦賀に引き返すように交渉したが、ペリーは応じなかったのみならず、神奈川での応接に異論があるなら、海路ただちに江戸に乘入ることにしよう、と言って嚇かした。

そこで幕府も止むを得ず神奈川に会見所を急造して、ここで応接することにした。この時、亜米利加応接掛として出張を命ぜられたのは林大学頭耀、井戸对馬守覚弘（江戸町奉行）、伊澤美作守政義（浦賀奉行）、鞆殿民部少輔長鋭（目付）、および儒者の松崎満太郎の5人でした。

### 日米和親条約の締結

応接は2月10日に始まったが、この時、ペリーは我が国情を察して、必ずしも通商の開始を迫らず、主として和親条約のみの締結を求めたので、会議も僅かに数回を重ねただけで、割合に早く、大した困難もなく相互の意見の一致を見た。こうして3月3日に双方の記名調印を終えた。即ち、この条約によって、我が国は米国のために、下田、函館の2港を開き、米国船が入港して薪水、食料などの必要品を取ることを許し、且つ米国官吏が下田に駐在することをも許した外に、米国船漂着の場合の救護や、米人の下田、函館両港付近数kmの間を自由に往来し得ることなどを約したのです。世に言う神奈川条約がこれで、すべて12か条から成っている。実に幕府が外国と締結した条約の嚆矢（：かぶら矢、物事の最初のこと）であります。

### 攘夷派の憤慨

この和親条約の締結を見て、徳川齊昭以下の諸大名を始め、攘夷派の者は大いに憤慨した。異人は遠ざけるべきもので、親しむべきではないと確く信じていたので、彼等がこれをもって老中阿部伊勢守正弘の大失策としたのも不思議はない。けれども、恐らくは、この時、何人を局に当たらせても、つくづくと彼我の武力の差を見ると、こうするより外はなかったでしょう。しかし、幕府は、通商条約はまだ結ばなかったもので、決して鎖国を破るつもりはなかったのです。

### 吉田松陰

さて一方、首尾よく目的を達したペリーは、応接中に後から来た2隻を合わせた9隻の船艦を率いて、3月21日の朝、神奈川を去ってその日の午後の下田に入港した。これより米艦は日々港内を測量し、ペリーを始め乗組員は上陸して町の内外を視察したりした。

有名な吉田松陰（長州萩の藩士）が、海外の事情を探るために密かに外国に渡ろうと志して、門



第20話 開港の始末

人の金子重輔と共に、夜陰に乗じて小船を米艦に漕ぎ寄せて、秘密にアメリカに連れて行ってくれるように懇願したのはこの時のことです。しかし、彼は断られたので、ボートで送り還されると、すぐに自首して出たが、国禁を犯したものとして幕府に罪にされた。この時、彼の師の佐久間象山（信州松代の藩士）もまた、渡航を勧めたというので罪された。



伊豆半島 下田

よしだしょういん べいかん おもむ  
吉田松陰が米艦に赴く

なお、幕府はこの前年の9月にすでに大船製造の禁を解いたが、この年の7月、更に令して、大船製造の上は、異国船とまぎれないように、日本船には白地に日の丸の幟を用いさせることにさせた。徳



## 第20話 開港の始末

なりあき けんぎ  
川齊昭の建議によったもので、これが日章旗を日本船旗に用いた始めです。

幕府は次いで 8 月にはイギリスと、12 月にはロシアと、翌安政 2 年 12 月にはオランダと、ほぼアメリカ合衆国と同様の和親条約を結んだが、このうちロシアとは、例の境界問題にも触れて、千島列島は択捉、得撫両島間の海峡をもって 2 分して、樺太はこれまでの通り、両国人の雑居地とすることにした。

さて、和親条約がすでに結ばれたので、アメリカ合衆国は安政 3 年（西暦 1856 年）7 月に、総領事ハリスを我が下田に駐在させた。ハリスは下田の東方約 1.6 km の柿崎村の玉泉寺をしばらくの止宿所として、その境内に高くアメリカ合衆国の総領事旗を掲げた。実にわが国に翻った最初の領事旗です。

### 総領事ハリスの国書捧呈

ついでハリスは幕府に書面を出して、国書を親しく将軍に捧呈するために、自ら江戸に上りたいと請うた。幕府は容易にこれを許さず、外交の事は一切下田奉行と交渉するようにといったのだが、ハリスは頑としてこれに応じないので、ついに翌安政 4 年 10 月に許して、これを江戸にのぼらせた。10 月 21 日、ハリスは江戸城に登り、将軍家定に謁して大統領フランクリン・ピアーズの書面を捧呈した。既に和親条約を結んだ以上、更に 1 歩を進めて、親しく通商貿易を営み得るようにしたいために、ここに総領事ハリスを派遣し、条約の締結を議させる、というのがその国書の趣旨でした。

この時、老中阿部正弘は既に没して、堀田備中守正睦（下総佐倉の藩主）が老中の首席となっていた。

### 堀田正睦

ハリスは更に 10 月 26 日、正睦をその屋敷に訪い、会見およそ 6 時間の長い間、滔々と世界の大勢を説き、鎖国の不利且つ危険な所以を論じて、相互に有利な通商を開かんことを求めた。ところで、元来、正睦は夙に海外の事情に通じて、その藩には西洋文明の輸入をすら試みていたほどの人でしたので、ここにハリスの意見を聞くと、今更のように感動して、いよいよ開国の止むを得ない勢いであることを深く察した。

こうして幕府においても、たびたび評議を遂げたが、ついに大体においてハリスの要求を容れることに一決すると、そのころ敏腕の聞こえのあった下田奉行井上信濃守清直、目付岩瀬肥後守忠震の 2 人を抜擢して、ハリスの応接の任に当たらせた。

### 通商条約の草案成る

そこで、2 人は 12 月 11 日から翌 5 年正月 12 日に至るまでの間に、ハリスの宿所に充てられた蛸所調所（九段下の牛が渚にあった洋学校）で応接を重ねること 13 回、ついに全条約の草案 14 か条を議定した。けれども、いよいよ調印するまでには、朝廷の許しを受けなければならないので、その期日を 3 月 5 日ということにして、ひと先づハリスを下田に帰らせた。

こうして安政 5 年 2 月 5 日、老中堀田正睦は勅許を仰ごうと、自ら条約の草案を携えて上京した。

## 第20話 開港の始末

### ちよつきよくだ 勅許下らず

ところが、諸大名のうちには攘夷を主張する者が多く、その上、諸藩の志士はこの時すでに京都に入  
って、尊王攘夷の説を多くの朝臣に吹き込んでいたので、朝議でも条約を非とする者が頗る多く、国  
論がまだ一定しなかった。孝明天皇は深く国家の前途を憂い、容易に幕府の請いを許さず、ついに3月  
21日になって、改めて三家以下諸大名の意見を徴して更に上奏するようにとの勅令を下された。

正睦はおおいに困惑したが、空しく江戸に帰ると、漸くハリスに調印の延期を求めて一時の弥縫  
をした。

### い い なおすけ 井伊直弼

この外交難の真最中に、幕府にはまた將軍の世継問題が起こって、頗る紛糾を極めていた。そ  
れやこれやで、この大難関を切抜けるには余程の大手腕のある人物が必要でした。そこで幕府は、この  
年4月23日に、俄かに近江彦根の藩主井伊直弼を挙げて大老職とした。直弼は時に年は44才で、思慮  
もあり、胆力もあるので聞こえていた。

折から、清国と戦っていたイギリス、フランスの両国が、勝った勢いをもって我が国に来て、通商を  
せまろうとしているという噂が聞こえた。ハリスはこれに乗じて頻りに条約の調印を促した。

「英仏が兵力をもって圧迫する場合の要求は、必ず過大であるに違いないから、先づ穏当な日米条約  
に調印して、彼等から不当な要求をされないようにするのが得策である」とハリスは説いた。

### つうしょうじょうやく ちょういん 通商条約の調印

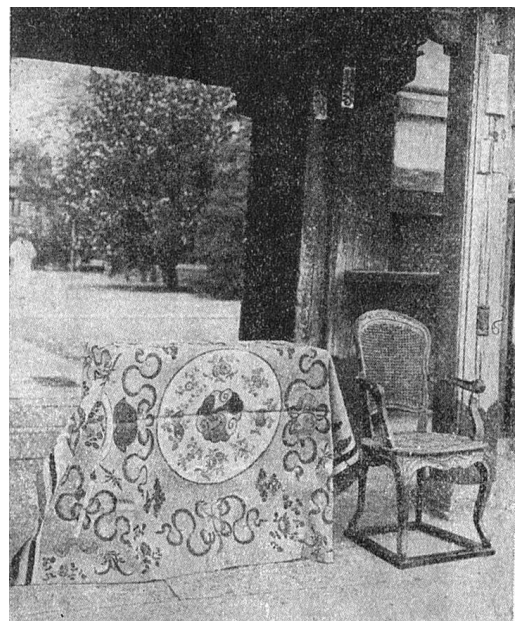
直弼は内外の事情が切迫して、もはや全く猶予などして  
いられないと見て、ついに勅許を待たずに安政5年（西暦  
1858年）6月20日に断然として、1月以来の懸案であった通  
商条約に調印して、下田、函館の外に、神奈川、兵庫、長崎、  
新潟の4港を開き、またわが国に居住する外国人に信教の  
自由を与え、治外法権を認め、なお輸入品、輸出品に対する  
税制などを定めた。世にこれを安政の仮条約という。

幕府は翌21日に京都に急使を馳せて、事情切迫、止む  
を得ずして条約に調印した旨を奏上して、その翌22日に、  
三家以下の諸大名に登城を命じて、調印の次第を通告した。

ここにおいて、孝明天皇は大いに幕府の専断を憤られ  
て、又、徳川齊昭らおよび多くの志士は、直弼の違勅を責め  
て大いにその罪を鳴らした。

### さいしよ けんべいしせつ 最初の遣米使節

一方、幕府は、ついで7月にはオランダ、ロシア、イギリスの諸国と同じ通商条約を結び、9月には



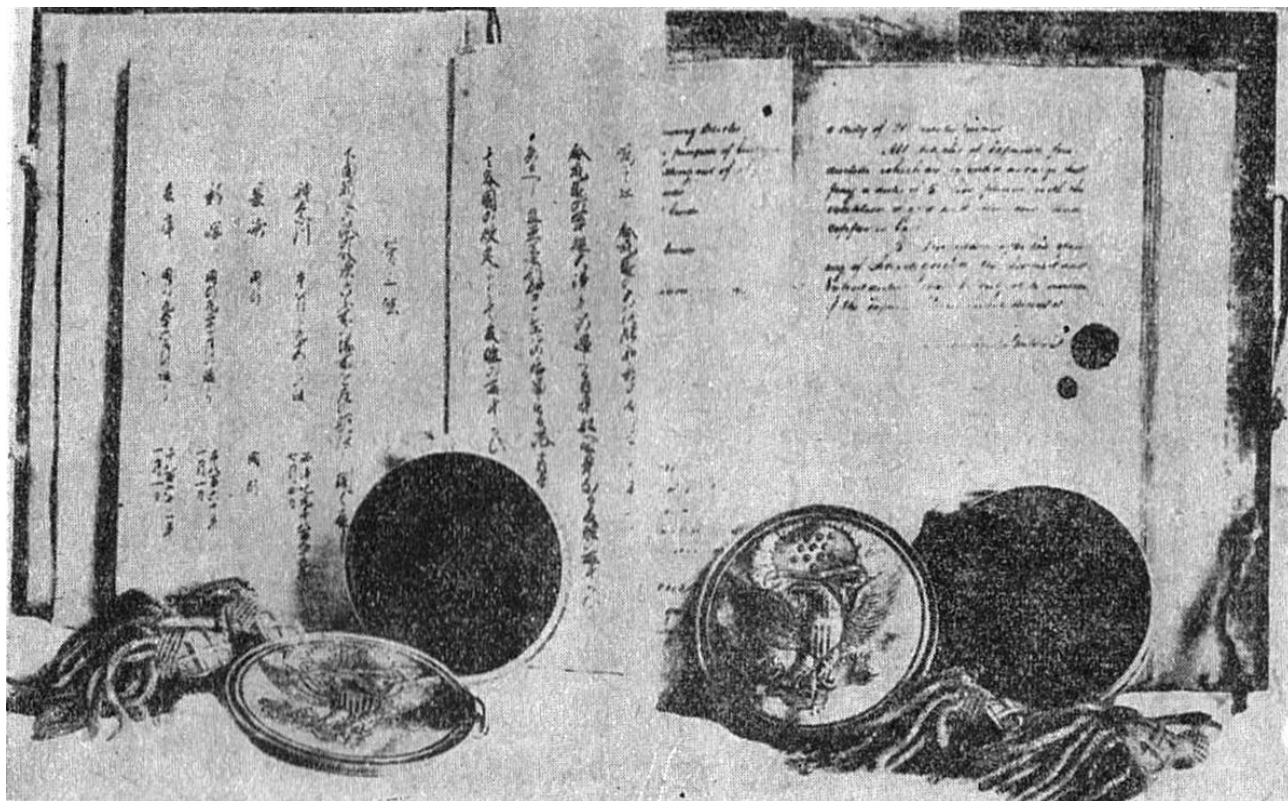
いせき  
横浜市 高台島 ハリスの遺蹟  
安政年間、米国領事館に充てられた  
神奈川の本覚寺で、安政の仮条約はここで  
調印された。写真は当時の遺物。

第20話 開港の始末

フランスともこれを結んだ。そして、これらの条約の交換は、大抵江戸で行ったが、ひとりアメリカ合衆国との交換だけは、同国の首府ワシントンでおこなうことに定めてあったので、幕府は安政6年9月、外国奉行新見豊前守正興を正使とし、同じく村垣淡路守範正および目付小栗上野介忠順を副使として、70余名の随行員と共に合衆国に遣わした（ポータハン号と咸臨丸）。

彼等は太平洋を渡って、アメリカに赴き、その使命を終えた後に、到るところで非常に歓迎されて、翌万延元年9月27日、はるかに今度は大西洋を横切り、インド洋を経て意気揚々と品川沖に帰着した。

しかし、この時は、すでに大老井伊直弼は浪士のために殺された数ヶ月後でした。



にちべいしゅうこうつうしょうじょうやくしょ  
日米修好通商条約書

（ 第20話 開港の始末 終わり。 次は前頁に戻り、第21話 江戸幕府の衰運 に ）